

経営評価シート

1. 団体の基本情報							
団体名	平成筑豊鉄道(株)		設立年月日	平成元年4月26日			
所在地	田川郡福智町金田1145番地の2						
出資総額	273,000千円		主な出資者	出資額	出資割合		
県出資額	75,000千円		本縣市町村	101,000千円	37.0%		
県出資割合	27.5%		(株)福岡銀行	12,500千円	4.6%		
			(株)西日本シティ銀行	12,500千円	4.6%		
設立目的等	国鉄再建法で廃止対象となった伊田線、田川線及び糸田線の運行を存続させることにより、地域住民の足を確保するとともに、田川地域の振興を図る。						
主要事業の内容							
事業名	事業内容						
旅客鉄道事業	①伊田線(直方～田川伊田)(16.1 ^千 円) ②糸田線(金田～田川後藤寺)(6.8 ^千 円) ③田川線(行橋～田川伊田)(26.3 ^千 円) ④門司港レトロ観光線(九州鉄道記念館～関門海峡めかり)(2.1 ^千 円) 計 51.3 ^千 円						
事業実績に関する情報	単位	H29	H30	R1	R2	R3	備考
旅客運賃収入	円	299,311,687	281,892,132	311,009,232	236,494,128	235,568,498	
構内営業等収入	円	34,047,768	27,460,860	80,675,226	40,522,431	82,944,439	
計	円	333,359,455	309,352,992	391,684,458	277,016,559	318,512,937	
2. 団体の組織・人員情報							
代表者名	代表取締役社長 河合 賢一		区分	プロパー			常勤
常勤役員名	専務取締役 櫻谷 健治		区分	県派遣			総務部長兼務
		H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1
常勤役員数(※)		2名	3名	2名	2名	2名	2名
職員数	常勤(正規)	33名	35名	36名	36名	37名	32名
	うち プロパー	29名	31名	33名	33名	33名	29名
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	26名	26名	29名	31名	30名	31名
	合計	59名	61名	65名	67名	67名	63名
増減の主な理由							
R3年度→R4年度 ・常勤(正規)▲5(出向者▲1、プロパー▲4) ・嘱託+1							
3. 県関与の状況							
人的支援 (常勤役職員再掲)(※)		H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1
	県派遣	1名	1名	1名	1名	1名	1名
	県OB	-	-	-	-	-	-
財政支出		H29	H30	R1	R2	R3	備考
	出資金	-	-	-	-	-	
	貸付金	-	-	-	-	-	
	補助・負担金	27,812千円	28,501千円	53,604千円	63,340千円	66,886千円	
	委託料	-	-	-	-	-	
4-①. 中期経営計画における改善に向けた取り組みの方向性(H29～R3)							
輸送人員の減少に歯止めをかけるため、域内のお客様に対する利便性確保とともに、域外からの誘客等に取り組む。 このため、県・沿線市町村とも協力し、アクションプログラムを策定し、着実に実施していく。 また、H24年度及びH30年度の豪雨災害で発生した借入金の早期返済に取り組む。							

※役員改選を理由とする年度当初の一時的な減は、反映していない。

4-②. 中期経営目標における改善目標の達成状況

改善目標の区分(視点)	目標達成に向けた具体的な取組、戦略等	指標	単 位	上段:計画 下段:実績						自己評価	改善目標区分の達成に向けた2021年度(R3)の取組状況			
				2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)					
事業活動・住民サービス (計画性 公益性 等)	①輸送人員の減少を最小限にとどめるため、減少率が普通:5%、定期:1.5%を上回らないよう努力していく。	普通旅客輸送人員 (伊田・糸田・田川線)	人/日		1,477					1,342	B	①輸送人員については、平成30年7月豪雨により減少していた輸送人員が戻りつつあったが、令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の流行により通勤・通学利用者が減り、大きな影響を受けた。(平成23年度の普通旅客輸送人員は1,576人/日、定期旅客輸送人員は3,021人/日)。 ②構内営業等収入(運輸雑収)については、新型コロナによる「ことごと列車」の運休が減ったことから若干持ち直したものの依然として新型コロナの影響で厳しい状況であるが、門司港レトロ観光線車両検査に要する費用の交付が北九州市からあったことにより、前年度比42百万円の増となった。 ③運行本数については、新型コロナ感染症の影響で利用者減となった状況に合わせるため、運転本数の見直し(167→155本)や、「平日」「土曜・休日」ダイヤの一本化を令和3年3月13日に実施した。		
		定期旅客輸送人員 (伊田・糸田・田川線)	人/日	1,447	1,484	1,360	1,414	988	1,017					
	②新たな収入源の開発により、構内営業等収入(運輸雑収等)の確保を図る。	構内営業等収入	百万円		47					47			A	
		列車運転体験収入	百万円	47	34	27	81	41	83					
	③お客様サービスの確保。	運行本数の維持 (伊田・糸田・田川線)	本/日 (平日)			175							175	B
					173	175	167	167	155	155				
財務会計 (経済性 効率性 等)	①営業収入の減少を最小限にとどめることにより、安定的な経営環境の実現を図る。	旅客運賃収入の確保 (伊田・糸田・田川線)	百万円		269					266	B	①伊田・糸田・田川線の旅客運賃収入については、新型コロナウイルス感染症の影響により、通勤・通学利用者の減、ことごと列車が運休となったことから、令和2年度と同程度の216百万円の収入となった。また、門司港レトロ線については、緊急事態宣言による運休に加え車両検査による運休(9~11月)があったため、北九州市魅力満喫パスポートによる収入13百万円があったものの5百万円の減になった。経常損益については、新型コロナウイルス感染症の影響に対する国・県・沿線市町村からの支援により前年度比18百万円改善し11百万円の黒字となった。これに、受託工事・補助金工事等の特別損益を加え、法人税等を差し引いた当期純損益は前年度に比べ11百万円改善し、17百万円の2期連続の黒字決算となった。 ②県財政支出については、新型コロナウイルス感染症の影響に関する支援により、前年度から4百万円増の約67百万円となった。また、安定的な財政基盤の確保のため、沿線市町村による毎年度150百万円の運営費等の補助金が令和2年度から241百万円に増額されている。人件費については、退職者が5名出たこと等により4百万円の減となったが、給料表の1号給が最低賃金とほぼ同額であるため最低賃金の上昇に合わせて給料表の改定を毎年行う必要があること、施設の老朽化による工事増により人員減が図れないことから、人件費の抑制は難しい状況である。 ③長期借入金残高については、順調に返済できており、令和7年4月末で完済予定である。		
		旅客運賃収入の確保 (門司港レトロ線)	百万円	273	276	258	285	212	216					
		経常利益額	百万円		20					20			A	
		23	23	24	26	25	20							
	②安定した財務基盤の維持を図る。	助成金による運転資金の安定的な確保(年度末における現金・預金額の確保)	百万円			△38					△34		A	
					22	△6	△46	△27	△7	11				
				県財政支出額 (補助・負担金に限る)	百万円		33							30
	人件費	百万円	30	28	28	54	63	67						
	③H24災害影響の早期解消。	長期借入金残額	百万円			40					0		C	
					82	113	165	50	151	153				
					245	255	263	279	282	278				
	内部管理 健全性 等	①経営体制の維持・効率化を図る。	労働契約法改正に伴う就業規則等の整備	-		検討					整備		C	
					-	未実施	検討	検討	検討	検討				
②安全性・信頼性の確保。		安全運行の確保 (鉄道運転事故件数)	件		0	0	0	0	0	0	A			
					0	0	0	0	0	0				
③効果的な組織運営の実現。		業務目標の明確化及び組織内での共有	-		実施						内容の充実を図る	A		
					-	未実施	検討	検討	検討	実施				
達成状況(まとめ)														
<p>これまでは、平成26年3月に策定した「アクションプログラム」に基づき、利用者拡大に向けて積極的に取組を行ってきたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響及び門司港レトロ観光線が車両検査の期間(9~11月)運休したことにより、年間輸送人員は126万人、対前年度比98.7%(門司港事業含む)と過去最低となり、また旅客運賃収入も前年度より93万円減少して、236百万円と過去最低となった。</p> <p>ただ、構内営業等収入に門司港レトロ観光線の車両検査等に要する費用の補助37百万円が入ったことにより、構内営業等収入と旅客運賃収入と合わせた売上総利益は319百万円となり、前年度より41百万円の増(対前年比115.0%)となった。</p> <p>営業費用は、原油価格高騰により動力費が10百万円増加(対前年比137.6%)したが、災害復旧工事が終了したことによる修繕費23百万円の減等があり、638百万円と、前年度に比べて24百万円の減少した。これらにより、営業損失は△319百万円と前年度と比べ66百万円の改善となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響に対する県支援金・市町村負担金や沿線自治体の「経営安定化助成金」、受託工事等の収支を計上した「当期純損益」は前年度から11百万円改善し、17百万円と前期に続く黒字決算となった(前年度は5百万円の黒字)。</p>														

※自己評価分類:
A 達成されている。概ね達成されている。
B 新型コロナウイルス感染症の影響により達成できなかった。
C 目標が達成できなかった。(Bを除く)

5. 経営状況(株式会社・公社)							
項目	単位	H29	H30	R1	R2	R3	
【貸借対照表】							
資産合計	千円	381,718	546,041	264,465	503,733	482,222	
うち金銭債権	千円	196,419	179,634	147,931	268,442	255,661	
うち棚卸資産(販売用不動産含む)	千円	6,028	5,687	6,290	16,750	9,910	
負債合計	千円	252,574	461,413	208,124	441,973	403,759	
うち借入金額	千円	50,628	197,124	65,328	49,488	123,072	
うち県からの借入金額	千円	-	-	-	-	-	
純資産の部合計	千円	129,144	84,628	56,341	61,760	78,463	
県債務保証額又は損失補償額	千円	-	-	-	-	-	
県損失補償債務残高	千円	-	-	-	-	-	
団体債務保証額	千円	-	-	-	-	-	
【損益計算書】							
売上高	千円	333,359	309,353	391,684	277,017	318,513	
営業損益	千円	△ 152,240	△ 240,565	△ 360,960	△ 384,957	△ 319,152	
経常損益	千円	△ 6,180	△ 46,402	△ 27,384	△ 7,328	11,444	
当期純損益	千円	△ 531	△ 44,516	△ 28,288	5,420	16,703	
【その他の補足項目】							
県財政支出額	千円	27,812	28,501	53,604	63,340	66,886	
内訳:出資金	千円	-	-	-	-	-	
内訳:補助金・負担金	千円	27,812	28,501	53,604	63,340	66,886	
内訳:委託料	千円	-	-	-	-	-	
内訳:貸付金	千円	-	-	-	-	-	
人件費総額	千円	254,934	262,726	278,804	282,115	278,142	
【財務指標】							
自己資本比率	%	33.8	15.5	21.3	12.3	16.3	
県財政支出率	%	5.8	5.6	7.4	9.7	10.3	
人件費率	%	76.5	84.9	71.2	101.8	87.3	
経常利益率	%	△ 1.9	△ 15.0	△ 7.0	△ 2.6	3.6	
【団体毎の経営評価指標】							
輸送実績(旅客・普通)	人	637,353	594,851	624,992	464,085	455,669	
" (旅客・定期)	人	1,019,472	999,810	1,000,536	816,052	807,868	
【常勤役職員の報酬・給与に関する状況(R3年度)】							
常勤役員平均年齢	54.0歳	常勤役員平均年収	8,323千円	常勤職員平均年齢	43.8歳	常勤職員平均年収	4,116千円
【経営状況に関する各数値、指標の増減理由】							
<p>○資産の減(△21,511千円)</p> <p>・未収入金の減(△23,140千円)</p> <p>○負債の減(△38,214千円)</p> <p>・未払金の減(△123,401千円)、長期借入金の返済による減(△16,416千円)</p> <p>・国補助金及び市町村負担金交付までの資金確保のための短期借入金の増(90,000千円)※令和4年4月末返済済み</p> <p>○借入金額の増(73,584千円)</p> <p>・国補助金及び市町村負担金交付までの資金確保のための短期借入金の増(90,000千円)※令和4年4月末返済済み</p> <p>・長期借入金の返済による減(△16,416千円)</p> <p>○売上高の増(41,496千円)</p> <p>・北九州市からの門司港レトロ観光線車両検査費用の交付による構内営業等収入の増(33,028千円)</p> <p>・ことこと列車の運行本数が昨年度より増加したことによる構内営業等収入(飲食提供代金等)の増(2,991千円)</p>							
6. 団体(経営責任者)の自己点検評価							
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響及び門司港レトロ観光線が車両検査の期間(9～11月)運休したことにより、年間輸送人員数及び旅客運賃収入が過去最低であった令和2年度を更に下回る結果となった。レストラン列車「ことこと列車」についても緊急事態宣言期間中は運休となったことに加え、県域内外への営業活動が制限されたため、コロナ前の令和元年度と比べ、乗客数及び収入ともに大きく下回る厳しい状況となった。</p> <p>沿線市町村、県及び国からの手厚い支援により事業継続に支障が出ていない現状のうちに、ウィズコロナの時代を見据え、収入源の確保を図り、更なる収支改善に努めていく。</p> <p>また、経営的に厳しい状況においても鉄道運転事故発生件数は0件を維持できており、今後も社員一丸となって安全・安定した輸送の確保に努めていく。</p>							
7. 外部専門家の意見							
<p>・伊田・糸田・田川線及び門司港レトロ観光線において、前年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響及び車両の法定点検による門司港レトロ観光線の運休(9月～11月)から年間輸送人員及び運賃収入は過去最低となっている。</p> <p>・団体の経営努力、国、県、市町村からの支援金等の増加により、当期純損益は前年度に続き黒字となっている。</p> <p>・沿線における人口減少及び少子化に伴い、安定的な収入源である定期利用者が減少傾向にあることに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響から通勤通学利用者が減少するなど、団体を取り巻く外部環境は厳しい状況にある。</p> <p>・団体では、観光列車の運行などの経営改善に取り組み、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前までは、成果もあがっていたが、依然として、現在の経営状態は非常に厳しいため、変化する社会経済情勢を踏まえ、スピード感をもった取組の実施及び適切なモニタリングが求められる。</p>							
8. 経営評価委員会による経営評価結果							
<p>新型コロナウイルス感染症の影響に対する県支援金・沿線市町村からの負担金、また団体の経営努力等により、前期同様黒字となったものの、緊急事態宣言などにより不要不急の外出が抑制されたこと、門司港レトロ観光線が車両検査の期間運休したこと、利用者数や旅客運賃収入は過去最低となり、厳しい状況が続いている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ収益を回収すべく、感染症予防対策に万全を期したうえで、団体で策定している経営改善のためのアクションプログラムの確実な実施、また観光需要の回復が見込まれるため、観光列車事業を中心に、観光需要を増やす取組、イベント等更なる収支改善策に取り組むことが急務である。</p>							